

## 学位論文審査の結果の要旨

若松弘起

本研究は、液相ペプチド合成を精密かつ効率的に実施するために必要となる、高度な機能を有する疎水性担体の開発を目指したものである。化学合成では、反応の各段階における収率の確認や反応過程で生成する異性体、副生成物の定量などを精密に実施する必要があるが、ペプチドの化学合成ではアミノ酸配列等によってモル吸光係数が異なるため、それぞれの標準物質を得なければ精密な評価は困難である。そこで、ペプチド伸長反応の基軸となる可溶性担体そのものに、発色あるいは蛍光を発する機能を付与することによりこの問題を解決することを目指した。様々な担体構造を探索した結果、ある種のベンジルアルコール誘導体に、優れた発色または蛍光特性を示すことを新たに見出し、この機能を精密なペプチド合成に応用できることを確認した。この発見により、多様なペプチド分子の化学合成を精密に実施するための新たな道が拓かれた。

以上のように、本論文は、多くの新しい知見を有すること、論文の内容、構成および公表論文数などから、本学位論文審査委員会は、全員一致して本論文が博士（農学）の学位論文として十分価値があるものと判断し、合格と判定した。

## 最終試験の結果の要旨

若松弘起

最終試験は、平成30年1月25日に東京農工大学農学部にて、学位論文の公表に引き続き、論文審査委員会により行われた。最終試験では学位論文の専門領域に関する質疑応答がなされた。その結果本審査委員会は若松君が自立して研究を進めることができる学力と見識を有しており、博士（農学）の学位を授与するに足る資格があると認め、最終試験を合格と判定した。